

小木の子 われら

校区内
全戸回覧

令和3年3月19日発行

のぼ いま ふもと
登れども未だ麓

校長 齋藤 光夫

14名の子どもたちが卒業を迎えます。

このタイトルは、私が毎年、卒業生に必ず伝えている言葉です。

この言葉は、元小木中学校長の本間 清先生から教えていただいたものです。その後、いろいろと調べてみますが、出典元となる文献を見付けられずにいます。

私が新採用2年目の当時、行事をやり遂げるたびに、本間校長先生はニヤリと一言、「この五味（ごみ）が！登れども未だ麓だ！」と声を掛けてくださるのです。（人に対して使ってはいけない人権に関わるひどい言葉に聞こえますが、五味とは、甘い、辛い、苦い、酸っぱい、塩辛いので5種の味のことで、また、牛乳を精製する5段階の味を指す言葉でもあり、その最上のものを醍醐味 [だいごみ] と言います。）行事等を無事終えた私に対し、うまくいったと浮かれるな、まだまだこれからだ、と教えてくださったのです。

今では、私にとって座右の銘となっている言葉です。

多くの経験を積んで力量を高めた者が、未経験者、未熟者、後輩、得意としない分野に対峙する相手、などに対して「なぜできないのか」と、指導という名の下で責め立てること（今ではパワハラになります）は、明らかな上から目線であり、得意不得意があつてよい個性をも否定した相手意識のない見方・考え方です。私は、この言葉の意味するところを、「登り詰めた者がすべきことは、さらなる高い山があることを自覚し、自分自身も未だ麓にいる者という意識で、続いてくる後継者を導くこと」と考えるようになりました。そう言いつつ、私自身、今の職場で行動が伴っているかと言われれば反省すべきこともあり、子どもたちだけでなく、全教職員とともに大切にしていきたいと思っています。

小学校という大きな山を登り切った卒業生たちが、6年間で登り詰めた頂上から何を見下ろすのか、さらなる高い山をどのような気持ちで見上げるのか。

卒業生たちは、「五味」を達成し、「醍醐味」を味わえたかどうか知り得ませんが、コロナ禍での様々な困難の中、すばらしい最高学年として小学校生活を頑張り抜いてくれました。心より感謝と称賛の言葉を贈り、新たなる麓からのスタートにエールを送ります。